2026年11月13日

各　　位

会社名　　株式会社秋川牧園
代表者名　　代表取締役社長　秋川　正
（コード番号:1380 東証スタンダード）
問合せ先　　取締役経営管理部長　原田　良人
（ＴＥＬ　０８３－９２９－０６３０）

2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2026年５月15日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）の業績予想における予想数値と比較して、本日公表の実績数値に下記のとおり差異が生じましたのでお知らせいたします。

また、最近の業績の動向を踏まえ、2027年３月期通期の業績予想につきましても、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想数値と実績数値との差異

（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	４，１１４	△４７	△９	△２６	△６．４４
実績値（B）	４，０６０	△８６	△４８	△３７	△８．９６
増減額（B－A）	△５４	△３８	△３９	△１０	
増減率（%）	△１．３	－	－	－	
（ご参考）前期中間期実績（2026年３月期中間期）	４，０７３	１５	３９	１９	４．７０

（２）個別

	売上高	経常利益	中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	４，０２４	△１９	△２７	△６．６５
実績値（B）	３，９４９	△４８	△２２	△５．５１
増減額（B－A）	△７５	△２９	４	
増減率（%）	△１．９	－	－	
（ご参考）前期中間期実績（2026年３月期中間期）	３，９８６	３２	３５	８．４８

（差異の理由）

売上高につきましては、冷凍加工食品の販売が堅調に推移したことに加え、製品の価格改定の効果もありましたが、直販事業において、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりを背景に新規会員及び既存会員のリピート率がともに低下したことなどにより売上高が想定を下回ったことから、当初予想を下回りました。

利益面につきましては、中国子会社の損益改善に加え、販売費及び一般管理費が当初予想より減少したものの、飼料価格が第１四半期に続き第２四半期にも大幅に値上げされたことに加え、ナフサ価格の高騰による包材等の値上げや、夏場の若鶏の出荷体重の減少による鶏肉一次処理場の歩留りの悪化などにより、当初予想を下回りました。

２．2027 年３月期　通期業績予想の修正（2026 年４月１日～2027 年３月 31 日）

（１）連結

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	８，６１５	７０	１３０	８０	１９．１９
今回修正予想（B）	８，３２０	△４４	４０	１１	２．７１
増減額（B－A）	△２９４	△１１４	△８９	△６８	
増減率（%）	△３．４	－	△６８．７	△８５．９	
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	８，２８３	１４３	１８６	２１	５．２３

（２）個別

	売上高	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	８，４３５	９０	６６	１６．００
今回修正予想（B）	８，１０９	２５	２４	５．８０
増減額（B－A）	△３２５	△６４	△４２	
増減率（%）	△３．９	△７１．５	△６３．８	
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	８，０８３	１５８	△２０	△５．０４

（修正の理由）

通期の業績予想につきましては、売上高は、直販事業において消費者の節約志向の高まりを背景とした会員数及び利用頻度の減少が下半期も続くことに加え、鶏肉及び外部委託品の販売が当初の想定を下回ることから、当初予想を下回る見込みであります。

利益面につきましては、中国子会社の損益改善や経費の減少などのプラス要因があるものの、上半期の業績の下振れに加え、飼料価格が 10 月以降もさらに値上げされたこと、直販事業の売上高の減少、夏場の若鶏の出荷体重の減少による鶏肉一次処理場の歩留りの悪化が９月まで続いたことなどから、当初予想を下回る見込みであります。

下半期におきましては、10 月以降回復基調にある鶏肉一次処理場の損益改善をはじめ、包材等のコスト上昇分の販売価格への転嫁、各工場の生産性及び歩留りの向上、直販事業における会員様限定

商品の投入やECサイトの改善など、全社を挙げて様々な取り組みを進め、業績の回復に努めてまいります。

以　上